

## 平成 25 年度第 1 回 四万十町地域公共交通会議 議事録

日 時：平成 25 年 11 月 19 日（火）13 時 30 分～

場 所：四万十町役場 東別館 2 階会議室

出席者：渡部睦（会長）、吉岡真佐人（委員）、谷崎直子（委員）、林利子（委員）、榎本利一（委員）、芝和寿（委員）、三浦ひろみ（委員）、佐竹憲雄（委員）、川村浩（委員）

事務局：四万十町企画課（4 名）

### 議事

#### ①H24 の取り組み報告について

（意見）

委 員：高南観光ありきで話が進んでいる。事前の話もなく事後承諾のような感じ。

複数のタクシー業者も頑張っている状況。

他の市町村ではデマンド形式も取り入れているようだが。

事務局：町としては町内の主要道の公共交通は路線バスが担っており、生活交通の再編は新たな路線運行だけではなく、既存路線の見直しも検討が必要であるため、路線バス運行会社を基本に進めている。

委 員：バス会社もタクシー会社も今後の役割分担を考えて行く必要がある。分野的なものと地理的なものなど

事務局：将来に渡って現在の方法が良いかということでもない。現状ではコミュバスの要望が強いと言った状況であるためこのような形をとっている。

委 員：病院バスの利用は多い。路線バスと病院バスでの良い調整方法はないのか。

デマンドもバス会社ということになると、タクシー会社としては厳しい

委 員：何とかタクシーも利用しやすい方法にならないかという住民の意見も聞いた。

十和の方では八木の奥、遠山に本当に困っている住民もいる。できるだけタクシー会社も圧迫しない良い案があればと思う。

会 長：路線のあるところはバス、それ以外の方法をどのようにやって行くかが課題。

町としては福祉タクシー券の取り組みも行なっているが、コミバスとのバランスが難しい。今後は、バス・タクシーの共存していける形態も模索していかなければならない。

委 員：福祉タクシー券については、制度を知らない住民の方もいた。文書での周知だけではなく、担当が直接話に行くなど狭い範囲で丁寧に呼びかけを行ってはどうか。「駅から観タクン」の取り組みも四万十町のためにと思っただけでギリギリのところ協力させてもらっている。

今回のコミバスの計画を見ていると、顧客が根こそぎ持って行かれるという不安が

ある。

会 長：福祉タクシー券は、7割程度の利用しかないため、今後は集落担当職員制度も活用しながら周知して行く必要がある

せっかくの制度なので活用していかなければならないと反省している。

委 員：個々に手紙を出すなど、もう少しきめ細かな対応はできないものか。

委 員：健康福祉課、包括支援センター、社協のヘルパーなど直接そういった方とやりとりしていると思うので、そこから周知すれば良いのでは。

会 長：直接、住民と職員が対応して行くことが大切。現状では、細かな対応ができていないが、今後はそういった部分も考慮しながら取り組んで行きたい。

コミバスの運行も今回の方法が最終形ではなく、方法も変えていきながら取り組んで行く必要がある。

福祉タクシー券については、可能な限り多様な方法で周知活動を行っていく

#### ②窪川地域におけるコミュニティバス運行計画について

委 員：是非、会議の委員として運輸局の補助金担当にも入ってもらった方が良い。

試験運行の際には 事前に道路管理者、公安委員会とはバス停等の確認をしておいた方がよい。

デマンドを活用する際の基準としては通常 100 世帯程なければ収支上厳しい。

#### ③消費税増税に伴う路線バス運賃値上げについて

委 員：法律に基づくものであるため致し方ない。松葉川や興津には白タクが存在するため指導等が必要ではないか。

委 員：白タク行為は直接取り締まりもできないことから、確認できれば警察への相談となる。

委 員：会社としては白タク行為を把握していない。確認できれば警察にも相談する。

#### ④その他

##### (1)大正つづら線

委 員：地域としては1日2〜3便が良い。予土線を利用することもないので朝一の便は不要。5便走らせることで赤字になったのでやめるということになっても困る。減便してでも維持してもらいたい。

##### (2)運行委託に関して

委 員：委託経費の中に消耗品を補助するなど、運行委託業者への配慮も一定していくべき。